

# 特集

## 関東大震災から100年 —大震災を“連携”で乗り越える—

Cooperation to overcome the future great earthquakes  
—Commemorating the 100th anniversary of the Great Kanto Earthquake—

特集担当主査：川島陽子

特集企画担当：浅野和香奈、園部雅史、七里蒼、宮本祐輔

### 大震災に対する 連携の可能性

1923年9月1日午前11時58

分、関東大震災が発生した(写真1)。あれから100年。日本のインフラは大きく進化するとともに、人々の生活も豊かに多様に変化した(表1)。

しかし、阪神・淡路大震災や東日本大震災など、現代においても地震による被害は甚大で、日本の国土と人々の心に深い傷を与え、その傷を残し続けている。私たち土木技術者の中にはその姿を目の当たりにするたび、自分の使命と照らし合わせ、「今までやってきたことがこれで良かったのか」という迷いや、「やはり自然には太刀打ちできないのか」という失意に苛まれた人も少なくない

のではないだろうか。

それでも南海トラフや首都直下など、大地震は今後、必ずやってくる想定されている。どうしたらこれらの大震災へ立ち向かっていけるのか。決して一人では太刀打ちできない自然災害。しかし、私たち土木技術者は何十年も何百年もこの自然災害と対峙し、知恵を絞り、大勢の人と連携しながら今日まで日本の国土を支えてきたはずである。であれば、この「連携」をより幅広く強いものにする、きつとこの先起きるであろう大震災も乗り越えていけるのではないだろうか。

そこで今号の特集では、この「連携」に関して、さまざまな視点で可能性を探っていく。

### ABSTRACT

At 11:58 a.m. on September 1st, 1923, the Great Kanto Earthquake occurred. One hundred years have passed since then. Infrastructures have evolved significantly, and people's everyday lives have become more prosperous and diverse. We, civil engineers, have been advancing technology day by day to minimize the damage while responding to these changes. We have faced natural disasters for decades and centuries, accumulated wisdom, and worked with many engineers to support the land of Japan. If we can strengthen this cooperation even further, we will surely be able to overcome the great earthquakes to come. All featured articles talk about the importance of linking information and people. Through these articles, we think about how and with whom we can collaborate and face our mission even more proactively.



表1 現在と1920年の比較

	現在	1920年代
平均寿命(男性)	81.05歳	42.06歳
平均寿命(女性)	87.09歳	43.20歳
在留外国人	約289万人	約8万人
東京都の人口	約1400万人	約370万人
東京一大阪の移動時間(鉄道)	2時間30分	12時間
主な情報手段	インターネット	電信・電話

出典：厚生労働省「令和4年簡易生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」、総務省統計局「国勢調査100年のあゆみ」第3部。「現在」は編集時に入手できた最新年の情報

## 関東大震災が発生した時代と現在の違いをイメージする

関東大震災を経験した本誌の読者は今日では珍しいだろう。そこでまずは上の写真をご覧いただき、当時の様子をイメージしてほしい。当時と比較し、現在が優れている点はどこなのだろうか？ 反対に現在、弱点となっている部分はあるだろうか？ そのようなことを考えながら本特集の記事を読み進めてもらいたい。

### 本特集の構成

本特集は、土木技術者がより広い視点で「連携」を考えられるよう、土木分野以外の方に多く登場していただいている。

まず関東大震災の概要とそこから学んだことを紹介し、「連携」の必要性を伝える。また100年前と明らかに異なる「情報」化社会に関して、それぞれの立場から「情報」との関係方、「情報」に関してどのような連携ができるかを語っていただく。

災害に直面し、対応していくのはやはり「人」である。関東大震災当時と比較し増加した人口、多様化した人々の生活や高齢化社会、国際化社会をどのように守り支えていくのかについて、「人」の連携に関しても焦点を当てている。

### 大震災を乗り越える

最後に編集後記として、本特集を担当した編集委員による座談会をお届けする。そこでは今回の特集を企画するに当たり悩んだこと、取材を経て感じたことから、「大震災を乗り越える」ことに対する一つの考えを伝える。

この特集を読み終わったときに、読者が土木技術者としてさらなる可能性と希望を見出し、自分が誰とどのような「連携」ができるのかを前向きに考え、明日からの自身の使命に向き合っていけることを願っている。そしてそれが大震災を乗り越える力になると信じている。

#### 参考文献

(1) 土木図書館デジタルアーカイブス